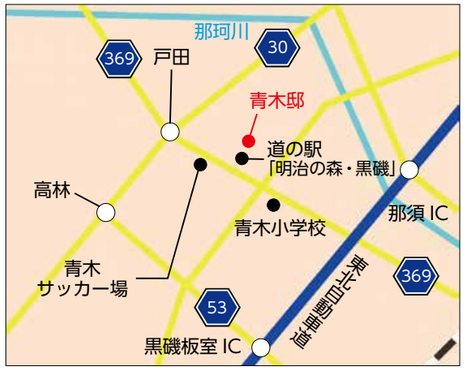
きっかけの邸宅

A mansion of an opportunity

姉妹都市調印の懸け橋となった中学生海外交流。その始まりのきっかけは、リンツに住む青木周蔵公の子孫が市内を訪れたこと。調印式の会場となった青木邸の歴史を感じ、周蔵公の人物像をひも解く――



周蔵公が生活していた当時の青木邸。表紙の写真と同じアングルだが、杉並木の樹高がまだ低く、時間の経過を感じさせる。正面口に1人の女性の姿が見える。

貴重なドイツ式洋風建築別荘

調印式の会場となった青木邸は、青木農場を開設した青木周蔵公の那須別邸として、明治21年(1888)に建築された(国重要文化財)。当初は中央の2階建ての部分だけであったが幾度かの改築を経て、明治42年(1909)にほぼ現在の形となった。設計は近代建築史でドイツ派の源流である松ヶ崎萬長(つむなが)。青木邸は国内に唯一残る松ヶ崎作品であり、木造洋風別荘の先駆的存在と言われる。

見て感じる周蔵公の人生観

青木周蔵は、外交官としてドイツを中心に長くヨーロッパに滞在した。35年にわたる外交官生活の中で、さまざまな欧米の建築や書物にふれ、洋風建築についての相当な知識を有していたと考えられている。そのこだわりが邸内の各所に色濃く残るほど、中は文化的で気品あふれる造りになっている。

周蔵公たちが生活する姿を想像しながら眺める青木邸には、当時の息遣いが聞こえてくるほどの静寂感が漂う。皆さんも一度訪れてみてはいかがだろうか。

激動の明治時代を外交で支えた子爵

Syuzo Aoki

青木 周蔵 (1844-1914)

幕末の長州(山口県)に生まれた明治時代の外交官。外務次官、外務大臣などを歴任し、不平等な立場から始まった日本の国際社会における地位向上のため、外交政策の中核人物として奔走した。1868年、初の日本人留学生としてドイツに留学し、軍事・経済・法律・西洋医学といったさまざまな分野を学んだ後、日本の外務大臣やドイツ、アメリカの大使を務めた。青木農場を開き、青木邸、青木小学校を作った人物でもある。

周蔵公(右)と娘・ハナ

周蔵公が起草した帝号大日本国政典の草案。大日本帝国憲法制定前に、さまざまな私擬憲法が起草された。

敷地の一角「ハンナガーデン」には、四季折々の花が咲き誇る。8月の夏場は、一面ヒマワリの黄色で染まる。ハンナは周蔵公と妻・エリサベートの間に生まれた長女・ハナの名前に由来する。

寝室として使われていた2階の一室。青木邸では最も古い部分で、当時は黒塗りの鉄製ベッドが置かれていた。

2階ベランダからの景色。右側は杉並木で、左奥の土壌はハンナガーデン。かつて周蔵公も眺めていた景色だろうか。

ドイツ様式の構法が採用された屋根裏部屋(非公開)。当時は青木家の歴史を物語る品物で埋め尽くされていたという。

青木邸で夕涼みコンサート

毎年恒例の青木邸でのコンサート。琴とフルートが織りなす和と洋のハーモニーに耳を傾けながら、青木邸を眺めてみましょう。

▶**とき**　8月6日㈯午後4時～
▶**出演**　箏曲萩の会
▶**問い合わせ**　**西生涯学習課**
☎0287(37)5419